

# 森吉山におけるグリーン・サポート・スタッフの巡視活動について

米代東部森林管理署上小阿仁支署

○笑内森林官 森田 武士

前田首席森林官 石井 利彦

## 1 はじめに

優れた自然環境を有する森吉山（1,454m）は、県立自然公園に指定され、高山植物の宝庫として「花の百名山」に数えられている。また、阿仁のゴンドラを利用して手軽に登山を楽しめる山として、初心者から上級者まで多くの人に親しまれている。

この森吉山において、人為による植生荒廃や森林機能の低下を防止するため、当支署では今年度よりグリーン・サポート・スタッフ（以下森林保護員）2名による巡視活動を行っている。

この間の活動から、今年度登山道の道幅を縮小した箇所において、植生が回復している現象が見られたため、植生の移り変わりの様子と特徴を把握するためのモニタリング調査を実施し、今後の自然環境の保全管理に役立てることとした。

## 2 森林保護員による巡視活動

### (1) 森吉山の概要

森吉山は秋田県北部に位置し（図-1）夏には高山植物、秋には紅葉、冬には樹氷と四季を通じて見どころのある山であり、森吉山の案内人の会、NPO森吉山ネイチャー協会等を始めとした多数のボランティア団体が森吉山の保全活動に関わっている。

平成18年の観光客数は、登山シーズンで約26,600人、スキーシーズンは約54,800人となり、年間約81,400人の観光客が訪れている。登山シーズンでは、その内ゴンドラ利用者が65%を占める。スキーシーズンでの樹氷観察が目的のゴンドラ利用者は6%となっている。



図-1

### (2) 森林保護員の概要

森林保護員による巡視活動は、林野庁の天然生林管理水準確保緊急対策事業により、平成18年度から実施されている。目的は、自然性の高い天然生林においてきめ細かな保全管理対策を実施し、人為による植生荒廃等の防止を図ることとされ、内容は、植生荒廃等の把握を主とした巡視を行うこととなっている。

当支署では平成19年度より巡視活動を開始し、人員は2名、月水金の週3日勤務で6月6日から10月30日までの60日間、森吉山を中心に実施している。

### (3) 巡視活動の内容

当支署では以下の活動を行っている。

- ① 登山マナー向上の呼び掛け（高山植物の盗掘、踏み荒らしの防止）写真-1
- ② 登山道の状況調査、簡易な修復作業
- ③ 支署の行事に参加（高山植物保護啓発パトロール、森吉山ガイド事業等）写真-2
- ④ 植生状況の変化を観察（モニタリング調査）写真-3



写真-1



写真-2

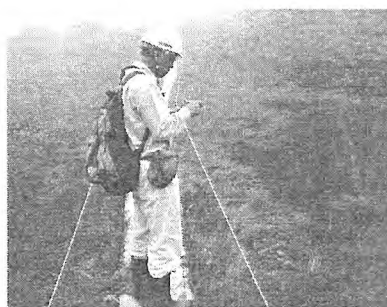


写真-3

### (4) 巡視活動の成果

巡視活動の成果として、森林保護員2名への聞き取り調査から、次の点が挙げられる。

- ① 登山者と接する機会が増えたことにより、森林管理署の存在、業務内容が登山者に認識されるようになった。
- ② 森林保護員が見回ることにより、盗掘や踏み荒らし等の事前防止につながり、登山者のマナーの向上が見られる。
- ③ 登山者の側からは、見回りをしてもらっていることで、登山リスクの軽減につながり安心して登山できる。

森林保護員の巡視活動によって、人為による植生荒廃の未然防止を図ることができ、登山者へのマナー啓発の呼び掛けから、森林管理署のPRにもつながっている。

## 3 モニタリング調査の実施

### (1) 調査の目的、背景

今年度森吉山を巡視していて気付いた点として、一部の登山道で道幅が必要以上に広い箇所があったため、道幅の縮小（ロープ設置箇所の見直し）を行った。その箇所において、しばらくしたら植生が回復しているといった状況が見られた。この時点では観察を行っていないため、どのように回復に至ったのかは不明瞭であるが、これらの状況を明らかにするため、今後観察を行っていくことが必要と考えた。

そこで、森吉山の植生の推移と特徴を把握するために、現在の植生の情報を収集するためのモニタリング調査を行い、どの地点でどのような管理が必要か明確な目標を立てた上で、登山道の維持管理や自然環境の適切な保全管理につながる巡視活動を行うことが必要であると考えた。



(3) 調査の分析

今回の調査では合計20地点で84種類の植物を観察し、植物の優占度を7段階(5, 4, 3, 2, 1, Δ, ·)で評価し、図-3のように一覧表にしてまとめた。その中から、秋田県レッドデータブックに記載されている絶滅危惧種がどの程度存在するかを把握し、それ以外でも森吉山において個体数が少ないと判断される種、登山者の衣類に付いて高山帯にやってきたと考えられる外来種の情報を得ることが出来た。

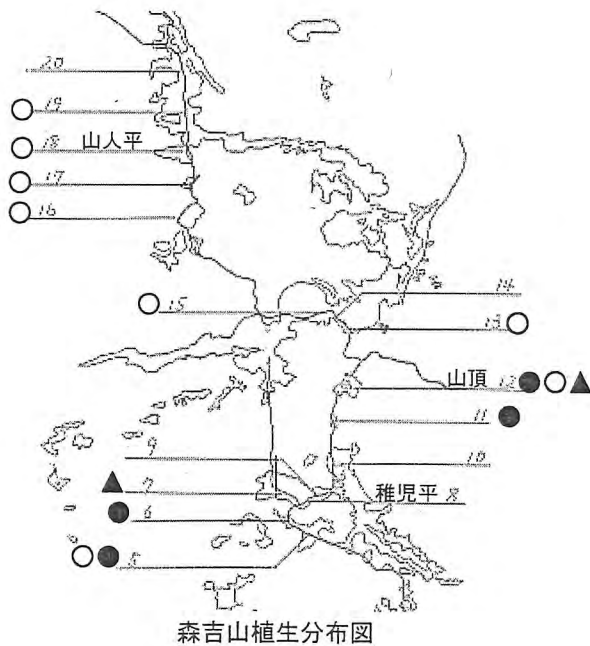
植物名	RDB指定	1	2	3	4	5	6	7	18	19	20
アカミノヌツゲ							Δ		Δ	Δ	
アカモ		1	1	Δ	1	1	1	Δ			Δ
アキノキノソウ		Δ	Δ				Δ				
アブラカヤ					Δ						
イワイチョウ			1	1	1	·			Δ		
イワトキリ		Δ	Δ		1			Δ			
イワカミ		Δ	1	·	Δ	1	1		1	2	2
イワツツジ	EN					·					

図-3

さらに、今回得た情報を森吉山植生分布図に落とすことにより、地図上に希少野生植物や外来種の位置情報をつかむことが出来た。(図-4)

今後は、地図情報をより分かり易くするため、森林GIS等を活用した情報管理に努める必要があると考える。

- 絶滅危惧種 I A類
- 絶滅危惧種 I B類
- ▲ 外来種(オオバコ等)



森吉山植生分布図

図-4

(4) 分析の結果

これまでの分析の結果から、以下のことが分かった。

- ① 外来種は人の集まる所(休憩地点等)に多く存在している。
- ② 絶滅危惧種は比較的人通りの少ない箇所に多く存在している。
- ③ 絶滅危惧種以外でも、個体数の少ない種は注意して観察することが必要。

今後は、以上の状況を踏まえ、県やボランティア団体を始めとした関係機関と早期に対策を検討していきたいと考える。



#### (5) 今後の課題

今後、森吉山の自然環境を適切に保全管理していくためには、各ポイント毎にモニタリング調査で得られた情報から、注意して観察する種を設定し、スタッフ間で情報を共有することが必要である。さらに、モニタリング調査を継続して得られた結果を、将来的には森林計画の策定にも反映させていきたいと考える。

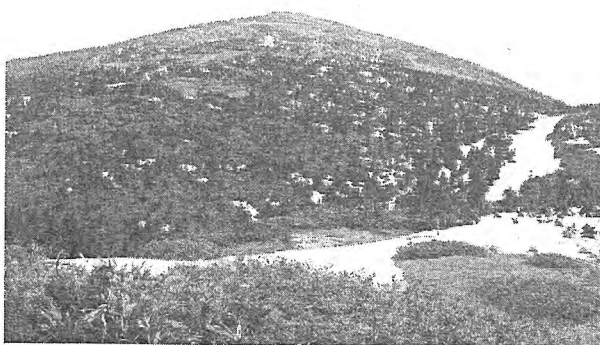
事業の継続に向けた課題として、森林保護員は単年度雇用のため、次年度にメンバーが全て入れ替わる可能性もある。そのため、誰が来ても実施出来るよう、マニュアルを作成することが必要となる。マニュアルの内容としては、日常的な巡視の実施方法、各ポイント毎に注意する植物のリスト、モニタリング調査の実施方法等を記載し、マニュアルの作成により、森林保護員の知識・技術の向上を目指していきたいと考える。

#### 4 まとめ

今年度から開始した森林保護員の巡視活動であるが、その活動により、森林管理署、国有林野事業のPR、登山者へのマナーの啓発、登山道等の状況の把握が成果として挙げられる。そして、モニタリング調査の実施により巡視の目標が明確となり、今後は、きめ細かな自然環境の保全管理に努めることが可能になると考える。

#### 参考文献

- [1] 2003 海游舎「野生生物保全技術」



森吉山



山頂